

009134689

WPI Acc No: 1992-262127 /199232

XRAM Acc No: C92-116827

XRXPX Acc No: N92-200387

Bed-sore preventing paper-cloth processed article - prep'd.  
by applying adlay tea, saponin and/or indigo to various papers, drying,  
and applying antibacterial e.g.. vanillin cinnamaldehyde and/or  
benzaldehyde

Patent Assignee: TANAKA Y (TANA-I)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 4176460	A	19920624	JP 90306634	A	19901113	199232 B

Priority Applications (No Type Date): JP 90306634 A 19901113

Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes

JP 4176460 A 9 A61G-007/05

Abstract (Basic): JP 4176460 A

Paper-cloth processed article is prep'd. by applying adlay tea, saponin and/or indigo to paper, leather paper, plastic chroma film paper, flate plates composed of nonwoven fabric, cloth paper for nappies processed from the above materials or leather-mixed paper; drying and spraying vanillin, cinnamaldehyde and/or benzaldehyde to obtain an antibacterial processed cloth, paper or film.

Opt. a mixt. of a soln. of chitin or chitosan dissolved in an organic acid with an adhesive is applied to an indigo-dyed cloth, paper or film and dried. Then, a soln. of cocoon pieces or powder or the waste soln. contg. sericin, serine, glutamic acid and aspartic acid is obtd. from winding raw silk is sprayed or scattered to the cloth, paper or film to form a coating. The clothes, papers and/or films are laminated to obtain a nappy cover for the article.

USE/ADVANTAGE - For preventing bedsore on the buttocks which often occurs to bedridden seniors and infants

Dwg.0/5

Title Terms: BED; SORE; PREVENT; PAPER; CLOTH; PROCESS; ARTICLE; PREPARATION; APPLY; ADLAY; TEA; SAPONIN; INDIGO; VARIOUS; PAPER; DRY; APPLY; ANTIBACTERIAL; VANILLIN; CINNAMALDEHYDE; BENZALDEHYDE

Derwent Class: D22; F07; P27; P32; P33

International Patent Class (Main): A61G-007/05

International Patent Class (Additional): A47G-009/02; A61F-013/15; A61F-013/54; A61F-013/66

File Segment: CPI; EngPI

Manual Codes (CPI/A-N): D09-A01; D09-C; F04-C01; F04-E04

Derwent Registry Numbers: 0114-U; 0116-U; 0715-U; 0764-U; 1011-U; 1654-U

Derwent WPI (Dialog® File 351): (c) 2002 Thomson Derwent. All rights reserved.

## ⑫ 公開特許公報 (A) 平4-176460

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>

A 61 G 7/05  
 A 47 G 9/02  
 A 61 F 13/15  
 13/54  
 13/66

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成4年(1992)6月24日

P 6908-3K

9163-4C A 61 G 7/04  
 8118-3B A 41 B 13/02  
 8118-3B  
 8118-3B 13/08

E  
P  
H

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全9頁)

⑮ 発明の名称 床づれ防止の紙布加工品

⑯ 特願 平2-306634

⑰ 出願 平2(1990)11月13日

⑱ 発明者 田中 友爾 大阪府豊中市宝山町19番8号

⑲ 出願人 田中 友爾 大阪府豊中市宝山町19番8号

## 明細書

① 発明の名称

床づれ防止の紙布加工品

② 特許請求範囲

後文記載の如く、布又は紙、皮革紙やプラスチック製から成る、クロスフィルム紙や無織布を加工した平板や二重更に加工して作成オシメカバー布紙や皮革混合紙フィルムにハトムギ茶やサボニン又は藍染して塗着乾燥し、バニリン、桂皮酸、アルデヒド、ベンソアルデヒド、アルデヒド類溶液噴射して抗菌性とした加工紙、フィルムと、別に、藍染した布紙フィルム面に有機酸に溶解して、キウニト酸液と他接着剤と混合して塗被乾燥せしめた表面に生菌片や、生菌粉不溶性熱湯に浸漬して、差取る時に得られるセリシン、セリソ、グルタミン酸、アスパラギン酸含有の温湯発液を噴霧又は散布して皮膜を形成し、布紙やフィルムを重ねて乾燥後、オシメとして多層合して石リ、オシメカバー構成

構造、積合し、複数の老人や、同病人や幼児、種々の人々に起り易い床部の皮膚障害に対する床づれを予防する事と、特徴とする床づれ防止布紙加工品

③ 発明の詳細な説明

この発明は、生菌の蘭虫が集団を作り、子孫を吐出す時に於て、フィブロインニラク酸、アミノ酸と蛋白分解酵素を分泌し、これをオシメカバー内面オシメ布紙やフィルム面に、ニラク生菌の殻を切断して水に軽く浸潤後軟化した上で、ロールで圧延して、圧延して、生菌殻を切断して、細片加工して更に粉碎して研ぎ、粉末化してお玉、又は又は低温乾燥して、前記布紙、フィルム面に、予め塗布して、抗菌性接着剤膜面に、塗着し又は散布して、接着せしめ乾燥した布紙、フィルムは藍染して、紙布やハトムギ茶、サボニン、抗菌剤と、塗被乾燥した紙布、フィルムを重ねて、オシメとして加工し、更にニルにオシメカバーに組込んだ

オシメカバー や、吸収剤を入めた複合紙のインメカバー加工品やパニツクの内面やタオル布や無織布、皮革板、皮革粉添加アラスナツクフィルム等セリシン液、塗布乾燥セレム等生薬粉を塗布せしめた革正研磨上下的皮膚炎傷予防布の布紙フィルム、床ザル等防水加工品等がある。内容が略す。

一般、寝たまゝ老人や病人、大き年齢者、17は、床ザルによく皮膚障害の局部と寝具との接触する。皮膚面に生じ易く、多く高患者の睡眠が阻げられると、その改善方法が要求される。多く、要因は、空気との流通接觸や局部皮膚面の悪く、常に湿り氣があり、気化に排便や排尿による汚物が密着附着し易く、呼吸性細菌の繁殖が盛んとなり、分解酵素の活躍等による。また、皮膚障害による、床ザル現象乃至手から公私の病院で使用の布地不鮮洁化、予防が困難となり、腐酸化亜鉛粉を添加粉又併用され局部に散布して、脱水乾燥と抗菌性を利用し、床ザル予防により子供長の窮屈生

活には床ザル解消せらる。その理由は短時間に致病となく、排尿、排便が行はれず為に局部の消毒管理が行はれ難い事である。

又、幼児用の紙不織布が多く、使用される方花は至るが、この紙オムツの構造として、麻織維や紙繊維エーテル化した紙と皮膚との接触面に位置せり、その背面に、不アクリル酸塗不リビールアルコール樹脂を含ませた薄葉紙と積み重ねた、複合体紙はオシメカバー紙E組合せたものが、使用主水でこれが、この吸水性が高く不アクリル酸塗不リビールアルコール樹脂、共重合物は、吸水と同時に膨張して孔状となり、繊維の多孔質面で開鎖して通気性を阻害せず、悪性の嫌気性菌の繁殖を促進し、皮膚炎予防は、阻げられず、ドカリでなく、之等の吸収剤の粉塵が肺に入ると肺傷害となり、又局部の温度は体温感覚が皮膚主水の吸収が出来、その改善が要求されたり。又一般のオシメ布地は抗菌剤、漠布を行つても多くは使用主水での量的制約があり、耐

久性が無い欠点があり、濃度の濃厚な主水に反応し、皮膚炎、生じやすくなり、その為には自然の産物から取った抗菌剤と保護形成膜に付く。皮膚面の保護と、衛生可及細菌の分解酵素による抗菌性を高める改善の方法があり、改善主水の床ザル予防法と考へて、生薬、繊維、採用を行つた。

生薬粉を作りには、煎出せ集露の時に、ロウガシ出可生薬系は通常一年のフィブロン絲で破壊され、所謂、破膠、ロウガシを芯に出来て、フィブロンの空泡化による硬化作用によつて作りかた、金絲とロウガシが包着し、外はセリン、アスペラギン酸、グルタミン酸等のアミノ酸と分解酵素を含んだものから構成されて、床ザル予防可付ける。この生薬粉中に存在する成分が有効に作用する。

又本中には、生薬に精製したも、石粉末や細粒粒化したも、又、粉末にしたガリを敷面上に塗布してガリザル、床ザル予防とはならぬ。

元素は生薬、主成分アラスナツクフィルム余り

よし結果を得られぬ。

一般、生糸は、70%のフィブロインと30%のセタシンより成り引張強度3.6~2.1kgf/cm<sup>2</sup>、弾性率は、21~23%，比重1.33の一枚の連続して出来てゐる。この原糸は、120℃にて加熱、オートクレーブ水浴加熱4.14kgf/cm<sup>2</sup>で加压すると、セリシンは溶解して糸から、この液を用ひし、4~8倍のアルコールで混合し数時間放置すると、白色沈澱物となる。回収され、これをアルコールで精製して、絞り前記溶解水液を減圧濃縮して冷却して沈澱物を出す。固形が容易であり、硫酸を濾過して作られる。

又このセリシンは、フィブロインに似て蛋白質がリシン、アラニン、グロジンが少くなく、セリシン、グルタミン酸、アスパラギン酸が多い。このセリシンを安価に作りには、生糸を熱湯中で加熱し、セリシンを除いて、熟化したフィブロイン、糸と作り時に生ずる瘤液の回収によつて得られるが、この操作

酵素が活性化で失效率も多いため、果皮から取つた蛋白分解酵素や、バイオテクノロジーによる培養した、改良酵素を添加することで、活性が増大せしめる事が出来る。

又、ニコアリシンを、オイルマリンや、フェノミエクサン、タニニン酸を浸漬し、凝固せしめたものも、使用される。活性度は、生薦粉よりは弱いが、また、センチアルデヒド、桂皮酸アルデヒドや、10ニリジン等の軽く処理した物や、アリビニールアルデヒドによる環化樹脂液を処理したカツアビ活性性がある。

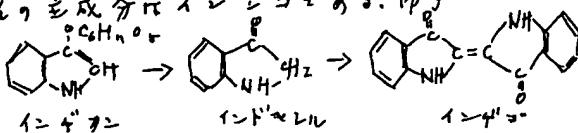
又、モエン、キトサン等有機酸溶解ペーストは、生薦粉を分散させたりを塗布すると皮膚炎に有効性があり、特に、乳酸に溶解したモノノクニール酸水に溶解してキトサンを本底に塗布し、水洗し、アルカリ性中和して構成キトサンと乳酸を溶解してから10%滅菌が完全に行なわれて活性度が高くなるを得た。

又、二面に更にアルギニン酸ナトリウムを塗布したモクナセリシンが活性工失效率か

少く在ればグリコル、キトサンによつて不溶化が容易。

又、アリビニールアルデヒド、環化樹脂キトサン液を代用にすら時も、アルギニン酸ナトリウムカルシウムは自然に固定化し不溶性となる。シナ生薦粉粒を接着剤とし、ゼラチン、カゼイン、大豆カゼイン、血液タイプインガムを使用せば、ガムマグローバン酸等も使用される外に、コンニヤク、多糖類が使用される軟質化する為に、グリセリン、グリコール、スクロース等が使用される。コンニヤクはカルクムで凝固する。

次に、生薦以外の、床下中止防ヒート、藍色素等有効性ある。この藍は、一年生草本種類が多く、徳島で産するもの有名で藍の葉と幹と根と花のインドミル配糖体インゲカンヒドロ、紅花とメタニウム成分ハイジゴリである。即ち



一般に、この生薦は開花期、葉を採集し温水

中で浸漬して、インシカニを溶出せしめ、葉中の酵素により、加水分解され、オレンジ色のインシルを作り、室温酸化によって、インゲンを作る。

このインゲンは、防腐剤であり、抗真菌剤、対ヒート、抗菌性があり、皮膚炎予防に有効である。又、八トウギ系、1科、一年草で371種と云ふが、蛋白質で14%を含むので、利尿剤として使用され、また、酸を含んで43%の蛋白質中に、分解されセリニン等のアミノ酸を含む。この外アスパニン、アラニン等のアミノ酸を使用して、元等は界面活性剤的作用が有り、これが、毒性の無いため、無害である。他の食浸透剤として、インドミル度のカサゴト油、即ち、1.8シネオール50~60%を含む番油を併用される。又、オイリル、アミール、エタノール等のアルコール、アラニオール、アミトール等の併用工和了併に、環化樹脂パクター等、アセチルPEトナルミークヘキレート化合物等併用される。又、前記アリビニールアルデヒド環化樹脂に使

用する様度酸アルデヒドは青色、黒色の2種類で、その活性範囲は、P.P.M. ~ 12 P.P.M. と云つて、フェノール / 1000 P.P.M. 以上で、非常に高い。又、アルカリ陽性、黄色のドクダミ葉、微細酵母 / 25 P.P.M. と 3 P.P.M. と存し、グラム陰性、大腸菌 / 12 P.P.M. 路膜菌 / 25 P.P.M. と 5 P.P.M. フエー / 10 P.P.M. と 15 P.P.M. とくらべると、雲泥の差である。ベザルビードは、カバーリー / 500 P.P.M. が陽性度が、500 P.P.M. 225 P.P.M. が陰性度が、200 P.P.M. 500 P.P.M. が弱い。

サルチル酸 / 10 P.P.M. は、比較的効果がある。カボウは大葉、25 P.P.M. が陽性度が、125 P.P.M. 25 P.P.M. が陰性度が、125 P.P.M. 125 P.P.M. が弱い。

又、アリビニールアルデヒドは前項の 10, 20, 30, 10, 10, 10 P.P.M. 後者 6~10, 20, 30, 10, 30, 30 P.P.M. が弱い。

実用的には、香りの良さ、アーモンドの良き結果、アリビニール、香料等、組合せがよく結果を得る。

す。又トヤンク主原料は、ガニ甲羅かよいも、  
が出来たが力=甲羅は一般に、塩酸で処理して  
脱カルシクまで行い、水洗後、アルカリで処理し  
て依りそれを粉化した、甲羅の反応性が高いため  
安価な方法は、鶴糞玉水に溶かした水に浸漬し  
て、発酵すれば、自然に脱カルシクまで行なわれ  
たり、こ中で水洗し、アルカリで洗浄して後は  
乾燥粉碎すれば、トヤンが得られると硫酸  
酸との併用は、時間と縮短する。この酸処理は  
乳酸と併用して、脱カルシクまで簡単に  
シクまで促進する結果である、脱臭性がある。  
この鶴糞、脱臭作用は、一般の干皮の石灰液  
の後処理法と同様、利用されることは多く、之等は、蛋白  
分解酵素による結果が高く、結果が不正。

本発明は、先ず、皮膚面に接着する紙布面や、フィルム  
面以下、生菌膜の細片や、生菌粉末と抗菌性の有  
る接觸前記接着剤、次に藍藻細胞と組合せた、吸水  
樹脂と組合せた、オシメ多量層紙と組合せた、紙  
下地や、ラベル状の布又は、加工可な既存の  
皮膚炎、障害物、介在物、一般公知の紙才

シメト内側に、布紙を重ね合せ、片は生菌の加熱  
して、時々溶液等、エリシン、コリン、アスパラギ  
ン酸等のアミノ酸や、リノブチニ酸液等を含浸  
した紙板と使用したときは、持久性の力が床に  
おそれ、不適とし、有用である。

又、公知の紙面にしめ、カバーに、使用する吸収剤  
不4%アリル酸や、不4%ビニルアクリル共  
重合樹脂、有効性として、アルテヒド香料や  
不4%ビニールアルミニウムの環化樹脂、オイド一  
ノルセカバット油、ゲラニオール、ヘントール、  
タニム、シネストラール、シトロネラールを添加  
する事により、抗菌性とし、ニ酸化塩素、過酸化物、  
添加物、不4%アリル酸液の添加は、より、持  
久性を高めた力があり、併用する群、グラム陰性  
菌、繁殖は抑制されると共に、黄葉は、脱臭エト  
レ。又、不4%カバーの外側に、皮革粉、混炒した  
紙と、使用する時は、空気、流通性を改善される  
と共に、ガス抜きとなり、脱臭性が、より併用によ  
く併用化される。この皮膚粉は、一般の牛皮、  
外膜皮、羊皮等、皮取後のスタイル粉の使用工

式3。この外、多量化版として、硝酸銀粉の入  
った紙や、硝酸の入りた紙や、布で使用するか  
接着剤で固定して、硝酸銀と脱臭によると、公害を  
防ぐ事が必要である。

以上、生菌膜は、有効性以外、藍色基  
と、組合せた、抗菌剤、接着剤の無毒化使用によ  
つて耐久持続性を高め、床の力の要因となる皮  
膚傷害を改善せりたものより構成して、オシメ  
多量層紙に、それを組合せた、同カバーを加工する  
上、床の力と、より改善の著業上有用を発明  
する。

この発明の実施要領は、图面によつて、説明され  
ば、次の如くである。

图1图は生菌(5d)の側面図と示し、生菌の中心  
部(6d)をカッターで切削して、薄出(7d)を取出して生菌(5d)  
の殻を图1图に示す如く底面(8d)を、压延機の歯  
車ローラー(8d)にコンベアー(9d)から運搬車と  
圧延し、スルX9圧延と同様に引延ばして、スル  
メタルアーチ(10d)を如く加工して、その上に切削部  
カッターとして图5图6图7图8图9細片に加工す

る。图2は法15.5cm×7.5cmを2枚(2)に  
カッターし、图1一部の細片を图5图6图7  
如く粉碎成粉粹して、粉末100~300mesh  
にして作り粗粒とする。

次に公知の方法で作成した、硫酸銅粉と合成銀  
粉、又は、麻織維と合成銀粉と混合して、抄造して  
薄葉紙を作り、必要に応じて、硫酸素エーテル加  
工して、常法で從つて行ひ、又74%印刷模の円  
形に抗菌剤を入し、接着剤(6)(6)を塗布し、生  
菌上面には、前述生菌細片(5)(5)を7.5cm×2  
mm×2mmと碎く落とす。又表面を押さえ一定  
の厚さに加へる。この厚さは、2枚×1枚と  
し接合剤(6)(6)上面に接着せしめ乾燥機中で  
乾燥ローラコンペーで誘導し乾燥する。これは  
天日乾燥の事、差支え無りが、一般に低温送風乾  
燥を行つたれど、图1图はこの乾燥と薄葉紙(5)  
を不20℃とある。この生菌細片の底部に接合  
位置に細片(5)(5)を固定する様に使用する。  
この薄葉紙は、44網目びき基板上に厚さ2mm  
まで加熱する。生菌の塗布量は全量の5~10%を3.

16图。生蘿蔔葉紙の背面積合紙(3)は藍緑色で  
紙と重ね合せ、且々上面の蘿蔔葉紙(2)は不溶性  
アミノ酸、リノブ酸液の外に、分解酵素八、八十一  
一、溶布され、少量の鐵維素エーテルやナトリ  
ンキトサン溶液が塗布された。16图、吸水紙は  
常法、不溶性アミノ酸液不溶性は一ルアルコール  
充満合樹脂が接着工丸で、GTX防水紙が  
3. 27積合紙を重ねて、両端を接着してその上  
オシメとして、使用された。17图は、左側面固  
定したもつてオシメカバー内に乾坤レジ袋  
として、組合結果がパンツを着用して使用する。  
18图は、生蘿蔔葉紙の粉不(5g)を接着剤で塗布  
した裏面に振替サニ、コーティングするが、この接着  
剤は、川ガれき抗菌性レ(6g)で示してある。  
19图は、布紙を且々背面にエリン、ナトサント入  
れた蘿蔔葉紙(2)が積層工丸、且々背面に藍緑色紙  
(3)が積層工丸、吸水紙(4)が積層工丸、且々背面  
に抗菌粉を入った防水紙(1)が積層工丸と両端  
を接着して、組合工丸でオシメで形成する。  
29吸水紙(4)は、二酸化塩素500倍

接着液に過酸化水素の微量入ったものを使用し、脱水殺菌性としたものである。<sup>(57) (58) (59)</sup>

左の図は、公知のインメカーバー-Aと表示、脱水殺菌器で30分も90分も、正面開口部と側面開口部(44A)、つりた、オーバーオバーE、バンド(34)が、側面開口(44B)の外側に接着止め、脚口(56)、(56')にもバンド(24)、(24')を組合して、パンツヒzem様に操作し、両足E脚口(56)、(56')に差込んで、バンドEを締付けて漏れ水を防ぐ(14)。脚部紙である。このパンツ(44)の底部(56)、内面に、このように固定する8箇所の接着エキスを固定して使用し、オーバー開口部(44B)は脚部風呂(1C)に密着して病人(1C)の腋下側面固定不可なり。パンツ布(2C)の底部(44C)に、布不inxタルEを、脚部に接着したものを組合して固定し、パンツ(2C)を着用してその表示と、その布不inxタル(E)は右の正面開口部の生蘭粉(4E)を接着して歯脂膜(25)を布地(3E)に重ねて乾燥したものを、この布地には重ねて乾燥したセリニア、酸分解酵素液と不活性シナ校酸が塗布含浸し、乾燥してから不活性シナ校酸が塗布含浸し、乾燥してから

セ、抗菌性樹脂加接着剤に混合エレム<sup>11</sup>。

パシ<sup>12</sup> (2) 布<sup>11</sup> 図<sup>11</sup>正面図工示し、左<sup>11</sup>面は、強引  
けらかく、取扱い可能と可とが、ニッパンツ<sup>12</sup>)  
自身の布地にチカリニアミン酸、酵素液を含満  
エレム<sup>11</sup>、左<sup>11</sup>面使用可、可能と有る。

オ<sup>13</sup> 図<sup>12</sup>敷布<sup>11</sup>の正面図<sup>12</sup>中央部に、生菌粉<sup>11</sup>  
チカリニアミン酸、酵素液(酵液)、生着セレタ<sup>11</sup>  
の<sup>11</sup>、生菌粉<sup>11</sup>(F) E、抗菌性接着剤<sup>11</sup>(F) E上に、  
敷布したカタ<sup>11</sup>、布地<sup>11</sup>(F) I=15、<sup>11</sup>ニ<sup>11</sup>アミン酸  
酵素液アルカリ<sup>11</sup>粉<sup>11</sup>含満塗着エレム<sup>11</sup>。

シ<sup>14</sup> 抗菌剤は、香料<sup>11</sup>アソニリニル<sup>11</sup>、使用工和<sup>11</sup>。

ス<sup>15</sup> 抗菌性フィルム<sup>11</sup>(3F) 和<sup>11</sup>、<sup>11</sup>布地<sup>11</sup>(F) の背面<sup>11</sup>、  
防水用として、ラミネート<sup>11</sup>され<sup>11</sup>。

ニ<sup>16</sup> 細菌<sup>11</sup>は、二酸化錫、エタノールアミン<sup>11</sup>の使  
用工和<sup>11</sup>。(ニ水<sup>11</sup>は、リガ水<sup>11</sup>(90~91%含水量))

ニ<sup>17</sup> セリニアミン酸酵素液は、生絲から織綿<sup>11</sup>  
加工<sup>11</sup>下<sup>11</sup>時<sup>11</sup>加熱蒸水を利用し、ヘザン、ト<sup>11</sup>  
ジンや、ハバナイト酵素<sup>11</sup>外に、在庫<sup>11</sup>から<sup>11</sup>分  
酵素<sup>11</sup>と分離培養してお<sup>11</sup>が、使用工れ安定期<sup>11</sup>  
に酵素<sup>11</sup>エーアル<sup>11</sup>が併用工和<sup>11</sup>左<sup>11</sup>分解単位

100~1000 PH. で有る。又之等は、アセト酸  
セル化した粉末を分散液にし、安定使用す  
る事も出来る。又ニラ皮膚炎に対するセリシン  
は、炎症面をセリシンで被膜保護し、活性化す  
る。アミン核酸等にドツエ、炎症を修復する事  
ある。フィブロインと、酵素が作用すると、シスチン  
を形成し、次第アミノ酸は、炎症固膜に役立つ  
促進剤となる。加熱する事。  
又、蘭虫も粉碎して酵素分解すると、薬効性が有  
る。丁度、酸、ゼタミンが得られる。  
生蘭液を粉碎して、20℃で、高压コートフ  
レーバーで、水を加熱すると、セリシンが80%の  
割合で抽出される。元々生蘭のセリシンは  
フィブロイン20%に対し、30%のセリシン  
を含有している。

ニラフィブロインと、粉末にしてそのまま化粧品  
の粉末として、使用されるが、セリシンは、含有す  
る生蘭の粉末は更に、効用が有る事は、云ふまでも  
ない。布版への塗布量は、1~5%含有の「如意」  
次にオーラル用に、皮膚炎、貧血率を測定した結果

性を示し、(A)は生繭細片と抗菌性接着剤を塗布した藍色素を塗布した紙とセリシン含浸致病菌の混合物で不織布で包んだ藍錠である。(B)は生繭、粉末と藍色素を使用したものである。(C)は藍色素錠、もしくは(A)、(D)は一般の糊合紙を示したものである。これは、紙不織布は必ず幼児の皮膚炎傷度が20人に対するものである。二十回細牛エリスチック45%に及ぶ不織布が加えられた。以上のように、この発明の特徴は、公知の紙不織布、又不織布地を使用した不織布を使用した。対して、老人や病人幼児が多くが、床づれになり易く、特に6月から9月頃には多く発生する。皮膚炎は主に要因として通気性が悪く、常に湿度が高い。一方で陰性菌の繁殖による傷害が多い。一方で、本発明によつて皮膚炎に対する効果とし、皮膚炎は保護被膜を形成する。セリシンと生繭、細片や、粉末と皮膚面に接触せしめられ、被膜を形成せしめる様に、オシメにラミネートして皮膚面と直接する底部面の位置に於けるオシメ面に抗菌性接着剤を塗布せしめ

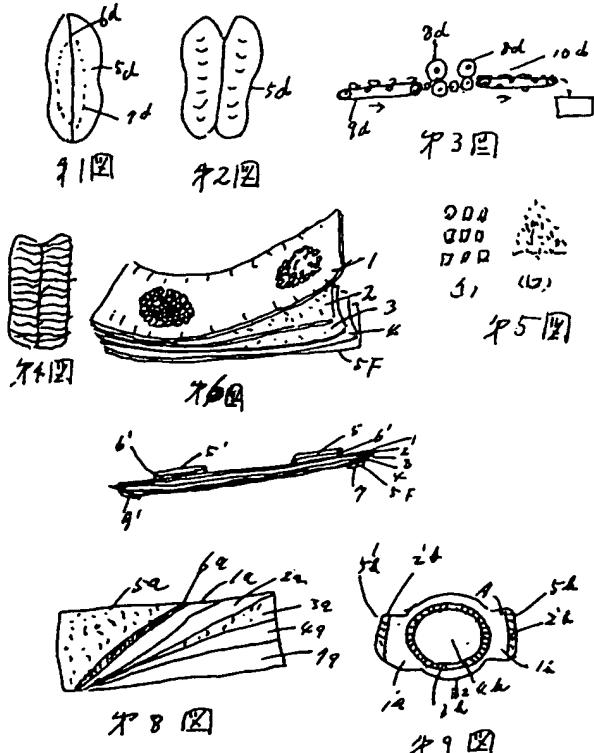
る。接着セリシン等によつて床づれ予防を行ふが、これより更に有効性を高めるには、抗菌性の藍色素と併用し、又、セリシンと同様に人工被膜形成に設立、セリシン、キトリン液とセリシン液と併用し、床づれの皮膚炎、保護被膜形成を促進せしめられ被膜形成後は、安定化する。抗菌性のアルギニド類と不織布は一層環化樹脂とし、併用することで、ドット、アルギニン酸ナトリウムカルボクルクル接着剤、安定化封止剤、又、紙不織布に使用する吸水剤の臭気予防には、二酸化塩素過酸化物香料による脱臭と、グラム陰性菌や陽性菌の増殖を抑え、皮膚炎の原因を抑制した。オシメ布紙を併用して、吸水剤によつて、油吸収性、花粉を抑える、香油による潤滑性と湿润性を抑え、アルギニド類と生繭粉末を混含して、吸水性を高めた。構成したところある。又、生糸を織綿加工した時に、生糸を熱湯液滅菌して、セリシン液とし、回収して、布地又は、パンツやタオル、敷布に塗布して、床づれ予防を行ふ。織ループは、住み兼オシメ等の使用回数を洗濯毎に予期する。

に利用出来る。セリシン液や、セリシンキトリン、セリシン液と布地に噴霧する事によつて皮膚炎の予防に効果がある。蛋白分解酵素リノブロキナ酸、アミノ酸、混入添加は、炎症後の回復に役立つ。産業上衛生上有用な発明である。

#### (4) 図面の簡単な説明

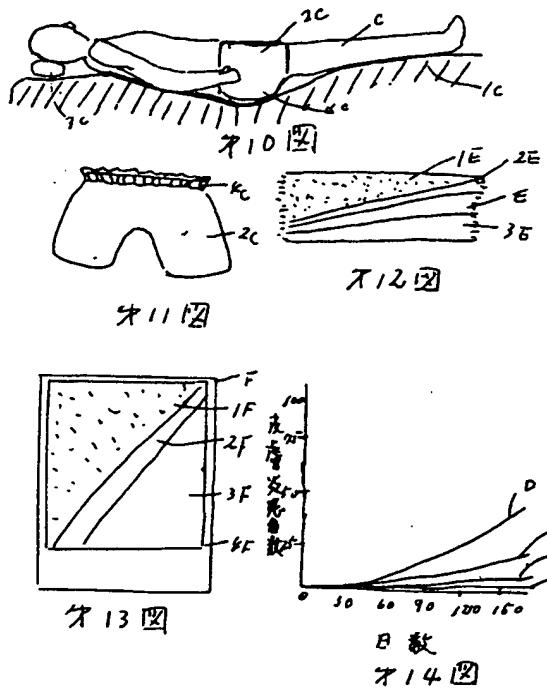
第1図は生繭の正面図、第2図は、生繭を分割した平面図、第3図は、圧延工程図、第4図は、生繭、スルメ状に圧延した平面の正面図、第5図は、生繭の細片の側面図、同図6は、生繭粉末の側面図、第6図は、床づれ予防被膜オシメの正面図、第7図は、生繭の側面図、第8図は、生繭粉を散布塗布せしめられた被膜被膜の正面図、第9図は、紙不織布カバーの正面図、第10図は、床づれ位置を示す側面図、第11図は、パンツの正面図、第12図は、不織布オシメの正面図、第13図は、敷布の正面図、第14図は、弹性。

特許出願人  
田中友輔



## 手続補正書

平成3年3月1日



特許庁長官

吉田文毅 殿



1 事件の表示 平成2年特許願第306634号

2 著明な名称 ベルト止・腰帯加工品

3 補正をする者

事件との関係 本人

住所(居所) 大阪府豊中市豊山町19番8号

氏名(名前) 田中友蘭

4 補正命令の日附 平成3年2月12日

5 補正の対象 明細書 図面

6 補正の内容 前紙通り

特許庁  
3.3.4  
出  
小西

## 内 容 (平成2年特許願第306634号)

(平成3年3月1日)

- ① 明細書13頁20行「アリの」を全部「アリ」に訂正します。
- ② 全上 14頁2行「アリの」を全部「アリ」に訂正します。
- ③ 全上 15頁 6行「アリ」を全部「アリ」に訂正します。
- ④ 全上 15頁13行「アリ」を全部「アリ」に訂正します。
- ⑤ 全上 15頁 7行「アリ」を全部「アリ」に訂正します。
- ⑥ 全上 15頁 8行「アリ」を全部「アリ」に訂正します。
- ⑦ 全上 15頁 9行「アリ」を全部「アリ」に訂正します。
- ⑧ 全上 15頁10行「アリ」を全部「アリ」に訂正します。
- ⑨ 全上 16頁3行「アリ」を全部「アリ」に訂正します。
- ⑩ 全上 16頁 9行「アリ」を全部「アリ」に訂正します。
- ⑪ 全上 16頁11行「アリ」を全部「アリ」に訂正します。
- ⑫ 全上 16頁16行「アリ」を全部「アリ」に訂正します。

⑬ 明細書17頁2行「アリ」を全部「アリ」に訂正します。

⑭ 全上 17頁6行「アリ」を全部「アリ」に訂正します。

⑮ 全上 21頁1行～17行「アリ用……特性」とあるを新規明細書21頁19行～18行「アリ用……日数」に訂正します。

⑯ 図面を全部削除の上訂正しました。

特許本願人

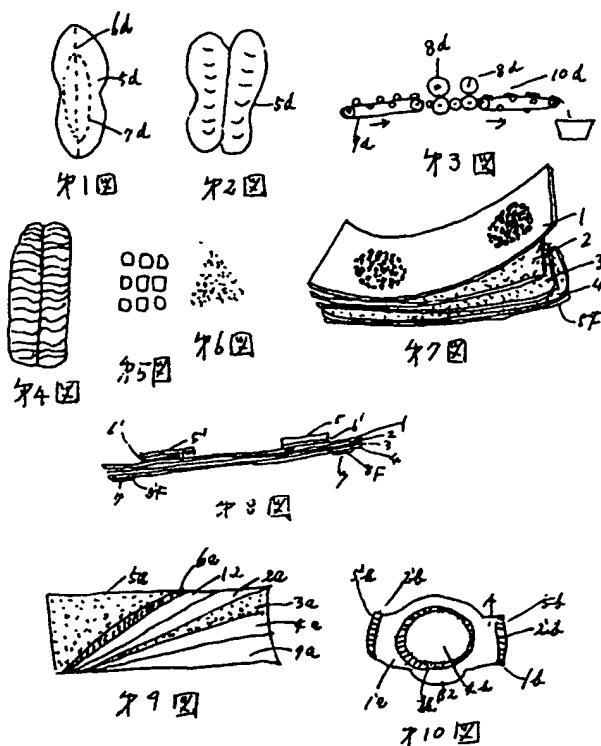
田中友蘭

に利用出来るので、セリシン液やセリシン、キトサン、オキシアン液を布紙に噴霧する事によっても、皮膚炎や予防に効果があり、蛋白分解酵素リポオキシダーゼ、アミノ酸、混入添加は浸透性を高めることで皮膚傷後の回復に役立つ。産業上、衛生上有用な発明である。

## 発明の簡単な説明

第1図は、生薬の正面図、第2図は、生薬を分割した平面図、第3図は、圧延工程図、第4図は、生薬をスレーブ状に反延した平板の正面図、第5図は、生薬の細片の側面図、第6図は、生薬粉末の側面図、第7図は、床づけ予防積層のオシメタ斜正面図、第8図は、その側面図、第9図は、生薬粉を散布塗布セルめた積層布紙の正面図、第10図は、紙オムツカバーの正面図、第11図は、床づけ位置を示す側面図、第12図は、パンツ布の正面図、第13図は、オシメタオルの正面図、第14図は、敷布の正面図、第15図は、生薬性(皮膚炎にかかる日数)。

特許出願人  
田中反蔵(宣)



## 手続補正書

平成3年4月4日  
平成2年11月10日差出

特許庁長官 吉田 大義人 殿

- 事件の表示 平成2年特許出願第306674号
- 分明の名前が記載されない、紙布が記載
- 補正をする者

事件との関係 特許出願人

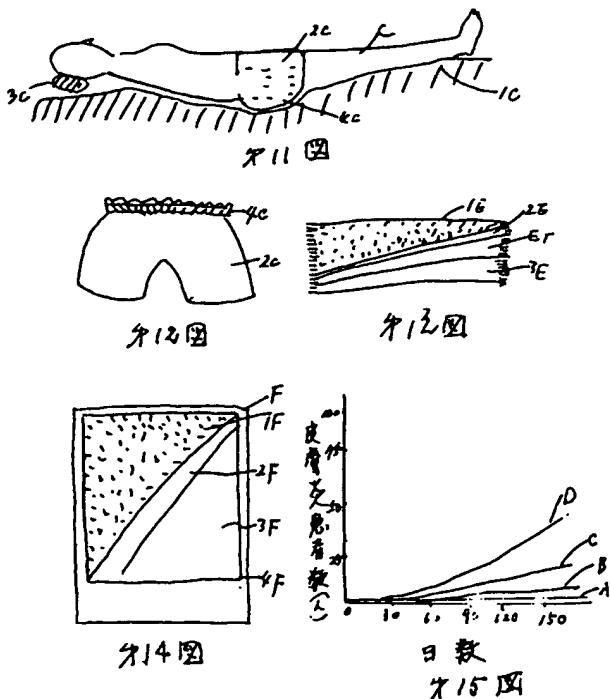
住所(居所) 大阪府豊中市宝山町19番8号

氏名(名前) 田中 反蔵(宣)

4 補正命令の日附 平成2年11月13日

5 補正の対象 明細書

6 補正の内容 別紙の通し



## 内 容 (特願平成2-301134号)

平成2年4月30日

①明細書7頁11行「である」とあるを「である。又繭を塩カルシウム水に加熱して溶解し、アルギン酸ソーダで凝固し又は電解隔膜で透析分離したものと塩布にて固定化したものと含む」

②全上13頁2行「である」とあるを「例へば繭を塩化カルシウム、同マグネシウム液で溶かしたものと硫酸有機酸凝固剤で塗布後、処理し、又は電解透析、脱カルシウムや脱マグネシウムを行つたものや、大豆蛋白やアルギン酸、アラビノセルロースの紙布を精製したものと使用される。」

③全上14頁20行「である」とあるを「である。又生繭を煮沸し、セルシウム、他と一緒に漂食し、悪臭を除去し、精製した生繭を塩化カルシウム、同マグネシウム液で溶解したものと、電解透析して過剰塩を取除き、又は硫酸、又は他の酸で脱カルシウム、同マグネシウムしたものと紙布に塗布し、アルギン酸ソーダー、大豆蛋白や他の動物蛋白、アルギン酸ドーピング紙布凝固せしめて精製せしめたものを使用する。」に訂正します。

④全上15頁2行「紙を」とあるを「紙布や生繭、イモムシを塩化カルシウム、塩化マグネシウム液で溶かした液を塗布した紙布や電解精製した液を塗布した紙布」と訂正します。

特許出願人  
田中友蘭